

ま な び や

日黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.48 2018年2月7日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

1月22日の首都圏大雪で、神学校は夜を臨時休校。四年前の大雪で折れたのを教訓に丈夫なアルミ製スコップを購入し、以来使わずじまいだった2本のビニールを剥がして、小降りになった夜半にC先生や寮生たちと雪かきを敢行。翌朝には重く凍結したので、早く対処したのは正解でした。在校生そろり歩きで来校し朝授業を終えた快晴の午後、通用門近くの日陰に形の崩れた雪だるまを発見。誰かを模して某学生が作ったそう。何かをぶつけた跡の理由がわかりました。

「私のたましいよ 目を覚ませ。琴よ 豎琴よ 目を覚ませ。私は暁を呼び覚まそう」(詩篇57:8)。

校長 関野祐二

● 祈り倒して皆既月食

前日の天気予報では、あろうことか午後6時以降曇り。1月31日水曜休校日の夜半前に全経過が見られる、またとない好条件の皆既月食ですから(教会の祈祷会は隔週でこの日は休みの日)、観望会のチラシまで作り、2階廊下に置いてあるいろいろなパンフやニュースレターの傍らに、そっと目立つよう(!)置いておいたのでした。残念ながら予報通り、ぴか晴れの冬空も午後3時頃から曇りがちに。暗い心持ちで別の雲量予報サイトを見たら、なんと8時~午前0時頃だけ、東京上空の雲が薄くなる予測! 急に気持ち明るくなり、喜々として屋上に機材をセットしました。午後9時頃からぽつぽつと人が集まり始め、遠方からもわざわざ。月食は肉眼でも楽しめるのですが、双眼鏡や望遠鏡があれば、透明な土色の影はもちろん、そのエッジが地球の丸みで弧を描いているのもわかります。皆既に入ってしまったん退散し、11時頃に戻って、寮生たちと月の復現開始を目撃。ダイヤモンドリングさながらの光景に、控えめな歓声をあげたのでした。最近の傾向は、スマホを望遠鏡の接眼部に当てて写メを撮る方が増えたこと。目で見えるに限る、とスマホ不使用を誇るあまのじゃくとは大違いです(キレイに撮れてて驚き!)。ともあれ、総勢20人ほどで天体ショーを堪能しました(顔の見えない参加者にドキドキ。声の大きい在校生にビクビク)。ひとつ失敗したのは、どうせすぐ曇るだろうと高をくくり、月の自動追尾が可能なお宝望遠鏡を使わなかったこと。祈り倒して晴れを導いたのが主催者でないことはバレバレでした。

● リベンジツアー準備始動

忘れもしない、あの3・11大震災。四日後に出発予定だった聖契初のイスラエルツアーも、諸般の事情で出発前日に中止を決めました(現地国の配慮でキャンセル料はほとんどかからず)。苦渋の決断を参加予定者へ伝え、ガイドブックを作って気合いを入れていた準備もフイとなって、津波と原発事故に圧倒されたまま、この件は封印。あれから6年経ち、心の傷もだいぶ癒えた頃、在校生の間より「イスラエルへ行きたい!」との切実な声が上がりはじめたのでした。「自分たちで実行委員会を立ち上げますから」との嬉しい提案も。断腸の思いでキャンセルしたツアーが、団

長になってくださいとの招きを受け、リベンジ(?) ツアーとして動き始めたのは6月でしたか。副団長に靈性のY先生を引っ張り込み、在校生有志(勇姿)3名を加え計5名で、第1回実行委員会を10月19日に開きました。定員6名の第三教室は熱気に満ち、思いはすっかり旅行気分。11月の第2回からは、昨年3月の聖書考古学資料館ツアーでお世話になったガイド氏(ヘブル語ペラペラ。実行委員は?)も加えて、目標を2019年3月の卒業式後に定め、旅程や費用なども一気に具体化。1年かけて参加費を各自が積み立てます。このレターが届く前後、ガイド氏も招いて説明会をすることに(実行委員の妙な出し物は無しになり安堵)。まずはリベンジ組と在校生主体ですが、申し込み状況により順次枠を広げる可能性もあります。続報は次号以降に。

● 倒れても大丈夫かな

前任から責任を引き継いで15年。人件費節約もあって、勢いひとりで仕事(授業担当からメンテナンスまで)を抱えることの多かった日々も、次の段階へと進む時が満ちたようです。ニュースでもお知らせしましたが、4月よりY先生をスタッフとしてお迎えすることに。4月発行の聖契神学校ニュースに自己紹介を載せるので、詳しくはそちらを見てください。きっとこちらの神学校以上に、Y先生自身が大きな決断をされたのでは、と察します。もちろん、15年間に学生数や働きの範囲が拡大した本校の管理運営業務も分担していただきますが(廊下での朝晩の挨拶も)、それ以上に願うのは、福音派神学者たる働きのベースとして本校が用いられること。神学校は教育機関であるとともに研究&発信機関でもあるからです(独自の紀要はないのですが)。伝統の再確認や強化とともに、変化や刷新、問い直しの動き著しい昨今の福音主義神学界を健全にリードしてほしいと願ってやみません(すでにその活躍は知る人ぞ知るですけど)。ここ数年、変化の少なかった教師陣に吹き込む新しい風。クラスも教師会も大いに活性化されるでしょうね。新約通論クラスで4月デビュー。うーむ、苦痛論ではないだろうな。期待の新役ですよ、きっと。

● もうすぐ春ですね

格別に寒い今年の冬ですから、こんな古いアイドル歌謡もつい鼻歌で。夕暮れがだいぶ遅くなり、オリオンは夜更けに西へ傾いて、季節が進んでいることを実感します。今は年度末と新年度に向けての、後期授業まとめ(レポート発表と試験の応酬)、卒業準備(5名です)、個人面談、編入や進級の申請(聴講終了の方もあり。お疲れさまでした)、履修届け提出(教育課程もあるよ)、そして新規学生募集(例年並みですかね)など、在校生も教師も事務スタッフも慌ただしく日々を送っています。我が担当の個人面談はすでに半分を越えましたが、例年より(悩みも?)多い様相。予約日時に、二人分のコーヒー持参で校長室に現れた学生あり(ワイロではないです、本人の名誉のため)。疲れが溜まった身に染みたのは、サービスされる喜び経験だから。今年の復活日は4月1日で、2日が入学式です。まさに、春と新年度はイースターとともにやって来る!

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 召しを受け、諸教会の推薦を得て送り出される、相応しい入学希望者が豊かに与えられ、新年度から共に学ぶことができるように。3月2日の入学試験が守られるように。
- ・ 卒業する5名の学びと卒業後の働き。3月第2週までの在校生の後期学び。4月開講『教育課程』「キッズ&ファミリー」「ユース」各ミニストーリー履修者が多く与えられるように。

- 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。